資料4.　杏林大学専門研修連携施設群

１）総合型研修病院

|  |  |
| --- | --- |
| **杏林大学医学部付属病院** | |
| **指導医** | 岩下光利、他8名 |
| **疾患の比率** | 婦人科腫瘍　35％，周産期　40％，生殖・内分泌・女性ヘルスケア　25％ |
| **医師数** | 常勤：30名　　　非常勤：3名　　　　計：33名 |
| **病床・患者数** | 病床数　1153床　（産科　24床、婦人科　40床、NICU 15床、MF-ICU 12床、LDR３床） |
| 婦人科手術　約　750件／年　分娩　約　900例／年 |
| １日当たりの平均外来患者数　90名 |
| **単年度専攻医受け入れ 可能人数** | 8名 |
| **病院の特徴** | |
| 当院は高度医療の提供・技術開発・研修を担う特定機能病院の承認を受け、東京西部地区三多摩の中核的医療センターの役割を果たしています。1次・2次以外に3次救急医療をカバーする高度救命救急センターを持つことは当院の最大の特徴と言えます。そのほかにも、総合周産期母子医療センター、がんセンター、腎・透析センター、脳卒中センター、造血細胞治療センターなどの施設を持ち、さまざまな分野で最先端の医療を行っており、大学病院として臨床医学の教育・研究の場であるとともに、地域の基幹病院として地域医療機関との緊密な連携のもとに高度医療を実践しております。  研修施設認定としては、日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設のほか、日本周産期・新生児医学会暫定研修施設、日本生殖医学会生殖医療専門医制度認定研修施設、日本婦人科腫瘍学会専門医制度規則指定修練施設、日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設、婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構登録参加施設の認定を受けています。 | |
| **研修の特徴** | |
| われわれ杏林大学の産婦人科医局は、多摩地区の拠点病院として産婦人科の大きな領域である周産期医療・婦人科腫瘍・生殖医療において高度な医療提供体制を整えております。外来においては、通常の外来の他に、各専門医（指導医）が中心となって臨床遺伝外来、腫瘍外来、不妊・内分泌外来といった特殊外来を行っています。杏林大学のみならず他大学出身の専攻医も多く、雰囲気のよい医局です。  1. 一般外来：各外来を担当して、医師としての基本姿勢、産婦人科医としての基本的な診療技術の習得を目指しております。  2. 周産期医療：東京都西部（多摩地域）には総合周産期母子医療センターは2施設のみであり、そのうちの一つのセンターとして、日々母体搬送等の受け入れを行っており、様々な症例を経験することができます。合併症妊娠や多胎妊娠の管理を関連各科と連携して周産期全般の管理を習得し、ALSOも受講することができます。  3. 婦人科腫瘍・腹腔鏡　　開腹による良性・悪性腫瘍手術及び良性腫瘍に対しては可能な限り内視鏡手術を考慮してその技術習得をめざし、基本術式を執刀医として完遂できます。また化学療法や放射線治療の管理についても習得できます。  4. 新生児管理　　新生児蘇生法（NCPR）Aコース受講を推奨し、新生児のトラブル発生時の対応ができることを目指します。  5. 終末期医療　　緩和ケア講習会受講を推奨と終末期の疼痛管理・心理的サポートなどを院内緩和ケアチームや地域医療機関と連携して行います。  6. 不妊症・内分泌治療　　基礎的な不妊症検査とAID（非配偶者間人工授精）を除く、あらゆる検査・治療に応需しています。また、体外受精（採卵・胚移植）にも参加することが可能です。  7. 画像診断と放射線治療　MRI・CTなどの読影力の養い、産科出血等に対するIVRの症例を経験することができます。  8. 学会発表・論文作成：各専門医が在籍しており、指導体制が充実しております。 | |
| **写真・ＨＰ**<http://www.kyorin-u.ac.jp/> | |
| http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/common/images/top_01.jpg | |

武蔵野赤十字病院

|  |  |
| --- | --- |
| **指導医** | 梅澤　聡，他3名 |
| **疾患の比率** | 腫瘍　50％，　周産期　30％，　生殖・内分泌・女性ヘルスケア　20％ |
| **医師数** | 常勤： 18名　　　非常勤： 4名　　　　計： 22名 |
| **病床・患者数** | 病床数　婦人科 23床　産科 48床　NICU 6床　GCU 12床  婦人科手術　約 1000件／年　分娩　約1200件／年  母体搬送 約60件／年  外来患者総数　30,000名/年 |
| **病院の特徴** | 高度急性期基幹型病院・地域中核病院の産婦人科であり「日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設」に加えて腫瘍、周産期、生殖、女性医学各分野の学会認定施設として複数の指導専門医が勤務、また、細胞診断専門医、検診マンモ読影認定医、がん治療認定医も多数在籍し、豊富な症例数を各分野専門医取得を希望する医師とともに専門性の高い産婦人科医療を実践している。 |
| **研修の特徴** | 豊富な症例数を指導専門医とともに経験し産婦人科専門医の基本的知識・手技を習得、その過程で自分に合った専門分野への進路相談、資格取得を各分野専門医取得者から直接指導、援助を受けることができる。 |
| **臨床研修の内容** | **専門研修1年目**  指導医とともに様々な領域の疾患の患者さんを担当し，産婦人科診療に必要な基本的な姿勢，技術を身につける．手術の第2助手を担当する．帝王切開術，卵巣良性腫瘍手術，子宮内容除去術を術者として行う．正常分娩および吸引・鉗子分娩を専門医の指導のもとで取り扱う．低リスク妊婦の健康診査を行う．救急外来を上級医の助手として担当する．  **専門研修2-3年目**  指導医とともに様々な領域の疾患の患者さんを担当する．手術の第一助手を担当する．帝王切開術，腹腔鏡下手術，子宮全摘術を術者として行う．正常分娩を取り扱う．鉗子分娩および吸引分娩を専門医の指導のもとで行う．産科外来・婦人科外来・救急外来を担当する．  **研究活動**  カンファレンスでの症例提示や抄読会発表に加えて，学会発表，論文執筆・投稿を行う． |
| **単年度専攻医受け入れ可能人数** | 2名 |

自治医科大学附属さいたま医療センター

|  |  |
| --- | --- |
| 指導責任者 | 今野　良 【メッセージ】 　自治医科大学附属さいたま医療センターのセールスポイントは、1) 周産期医療と婦人科がん診療（浸潤がん手術症例数は約120例）においては症例の豊富さ、2) 手術など技術の指導に熱心な指導体制、3) エビデンスを作るための臨床試験や治験への参加が多く、自然にEBMを身につけられる環境、である。後期研修4年目の秋に産婦人科専門医を取得することができ、さらに希望があればサブスペシャルティの周産期(母体・胎児)専門医、婦人科腫瘍専門医取得のための研修に移行できる。また、大学院進学も積極的に支援している。 |
| 指導医数 | 専門研修指導医3名、日本産科婦人科学会専門医10名、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医2名、日本臨床細胞学会細胞診専門医1名、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医4名、日本内視鏡外科学会技術認定医2名、日本がん治療認定医機構認定医3名、日本生殖医学会生殖医療専門医1名、日本周産期・新生児医学会 周産期(母体・胎児)指導医1名、NCPRインストラクター1名 |
| 外来患者数 | 外来患者　1700名（1ヶ月平均）　婦人科：1100名、産科：600名 |
| 入院患者数 | 1090名（1ヶ月平均）　婦人科：410名、産科：680名 |
| 手術件数 | 約57件/月(婦人科40件 産科17件)  約700件/年(婦人科500件　産科200件) |
| 分娩件数 | 約　33件/月　　約400件/年 |
| 経験できる疾患 | ほとんどすべての産婦人科疾患を経験することができます。 |
| 経験できる手技 | 1）婦人科内分泌検査・・・基礎体温測定、腟細胞診、頸管粘液検査、ホルモン負荷テスト、各種ホルモン測定、子宮内膜検査  2）不妊（症）検査・・・基礎体温測定、卵管疎通性検査（通気、通水、通色素、子宮卵管造影）、精液検査、子宮鏡、腹腔鏡、子宮内膜検査、月経血培養  3）癌の検査・・・子宮腟部・頸部・内膜をはじめとする細胞診、コルポスコピー、組織診、子宮鏡、RI検査、CT、MRI、腫瘍マーカー測定  4）絨毛性疾患検査・・・基礎体温測定、ホルモン測定（絨毛性ゴナドトロピンその他）、胸部X線検査、超音波診断、骨盤動脈造影  5）感染症の検査・・・一般細菌、原虫、真菌検査、免疫学的検査（梅毒血清学的検査、HBs抗原検査、HCV抗体検査、HTLV-I検査、HIV検査、風疹抗体、トキソプラズマ抗体、淋菌DNA、クラミジアDNA・抗体検査など）、血液像、生化学的検査  6）放射線学的検査・・・骨盤計測（入口面撮影、側面撮影）、子宮卵管造影、腎盂膀胱造影、リンパ管造影、シンチグラフィー、骨・トルコ鞍・胸部・腹部単純撮影法、CT、MRI、RI検査  7）内視鏡検査・・・コルポスコピー、子宮鏡、腹腔鏡、直腸鏡  8）妊娠の診断・・・免疫学的妊娠反応、超音波検査（ドップラー法、断層法）  9）生化学的・免疫学的検査  10）超音波検査・・・ドップラー法：胎児心拍聴取、断層法：骨盤腔内腫瘤（子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍その他）、胎嚢、胎児頭殿長、児頭大横径、胞状奇胎、胎盤付着部位、多胎妊娠、胎児発育、胎児形態異常の診断、子宮頸管長、Biophysical Profile Score (BPS)、Amniotic Fluid Index (AFI)、血流ドップラー法  11）出生前診断・・・羊水検査、胎児well-being診断、胎児形態異常診断  12）分娩監視法・・・陣痛計測、胎児心拍数計測、血液ガス分析 |

|  |  |
| --- | --- |
| 経験できる手術（術者） | 婦人科：腹式単純子宮全摘出術、腟式単純子宮全摘出術、開腹・腹腔鏡下子宮筋腫核出術、子宮腟部円錐切除術、子宮頸管形成術、頸管ポリープ切除術、子宮脱手術、開腹・腹腔鏡下付属器摘出術、開腹・腹腔鏡下卵巣腫瘍核出術（切除術）、開腹・腹腔鏡下卵管避妊手術、Bartholin腺手術、陳旧性会陰裂傷形成術、腹腔鏡下腹腔内観察、胸水穿刺術、腹水穿刺術、皮膚腫瘤生検術、開腹・腹腔鏡下異所性妊娠手術、子宮卵巣悪性腫瘍手術  産科：会陰切開・縫合術、吸引遂娩術、鉗子遂娩術、骨盤位牽出術、腹式帝王切開術、子宮内容除去術、子宮頸管縫縮術・抜環術、妊娠合併卵巣腫瘍核出術（切除術）、産褥会陰血腫除去術、羊水穿刺術 |
| 経験できる手術（助手） | 婦人科：広汎子宮全摘出術、準広汎（拡大単純）子宮全摘出術、後腹膜リンパ節郭清、卵巣癌根治手術、子宮鏡下手術、腹腔鏡下悪性腫瘍手術、外陰切除術  産科：子宮動脈塞栓術 |
| 学会認定施設 | 日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修認定施設 日本臨床腫瘍学会専門医制度研修認定施設 日本臨床細胞学会研修認定施設 NPO婦人科悪性腫瘍化学療法共同研究機構認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設  日本婦人科腫瘍学会研修認定施設  日本産科婦人科内視鏡学会研修認定施設 |

東京都立多摩総合医療センター

|  |  |
| --- | --- |
| **指導医** | 光山　聡、谷口義実、他2名 |
| **疾患の比率** | 婦人科腫瘍　40％，周産期　40％，生殖・内分泌・女性ヘルスケア　20％ |
| **医師数** | 常勤：16名　　　非常勤：8名　　　　計：24名 |
| **病床・患者数** | 病床数　婦人科35床　産科53床　NICU 24床（総合周産期センターとして一体運用している小児総合医療センター病床数）  婦人科手術　約740件／年　分娩　約1180例／年　母体搬送　160件／年  外来患者総数　約24,000名/年 |
| **病院の特徴** | 「日本産科婦人科学会専門研修施設」に加えて「周産期専門医制度基幹施設」および「婦人科腫瘍研修認定施設」となっています。サブスペシャリティである周産期（母体・胎児）専門医、婦人科腫瘍専門医の取得可能です。 |
| **研修の特徴** | 良性から悪性まであらゆる婦人科疾患、母体救命、胎児救命、ＮＩＣＵを含むあらゆる周産期疾患、女性ヘルスケアなど非常に豊富な症例をそれぞれの専門家による手厚い指導にて研修することができます。 |
| **臨床研修の内容** | **専門研修1年目**  指導医とともに様々な領域の疾患の患者さんを担当し、産婦人科診療に必要な基本的な姿勢、技術を身につける。帝王切開や単純子宮全摘術など基本術式の第1助手を担当する。  **研究活動**  カンファレンスでの症例提示や抄読会発表に加えて、学会発表、論文執筆・投稿を行う。 |

**２）連携病院**

|  |  |
| --- | --- |
| **那須赤十字病院** | |
| **指導医** | 白石　悟、他2名 |
| **疾患の比率** | 婦人科腫瘍　40％，周産期　30％，生殖・内分泌・女性ヘルスケア　30％ |
| **医師数** | 常勤：8名　　　非常勤：0名　　　　計：8名 |
| **病床・患者数** | 病床数　460床　（産婦人科　49床） |
| 婦人科手術　約　363件／年　分娩　約　822例／年 |
| １日当たりの平均外来患者数　85名 |
| **単年度専攻医受け入れ 可能人数** | 2名 |
| **病院の特徴** | |
| 東京駅から東北新幹線で1時間10分の那須塩原駅から、バスで15分の当院は、「マイタウン・マイホスピタル～地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に～」を基本理念とする栃木県北最大の基幹病院で、平成24年7月に新築移転したばかりの24時間の託児所を有する新病院である。第三次救命救急センター（ドクターカー所有・ドクターヘリのためのヘリポート完備）・災害拠点病院・地域周産期母子医療センター・地域がん診療拠点病院・地域医療支援病院・へき地医療拠点病院等に指定され、地域医療の中核をなす。研修施設認定としては、日本周産期・新生児医学会暫定研修施設、栃木県特定不妊治療実施医療機関（指定項目：体外受精・胚移植および顕微授精）、婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構登録参加施設、日本婦人科腫瘍学会専門医制度規則指定修練施設、日本臨床細胞学会教育研修施設の認定を受けている。 | |
| **研修の特徴** | |
| われわれ那須赤十字病院の産婦人科医局は、各種診療ガイドラインを遵守し、コメディカルや地域関連病院との関わりを大切にすることで、患者やその家族に「よりよい質の医療」を提供できる医師の養成を行っている。また、地域医療支援病院として、特定の年齢層や特定の疾患に限定せず、思春期から性成熟期・閉経期・老年期に至るまでの多層にわたる患者の管理を習熟することにより、女性のライフスタイル全般の診療・治療ができる「全人的な産婦人科医師の養成」を教育目標におく。  1. 一般外来　　各外来担当して、医師としての基本姿勢、産婦人科医としての基本的な診療技術の習得を目指す。  2. 周産期　　産科超音波検査・CTGの判読と、胎児心拍数波形分類に基く胎児管理の指針に習熟することを基本とする。合併症妊娠や多胎妊娠の管理を関連各科と連携して周産期全般の管理を習得し、獨協主催のALSOも受講することができる。  3. 婦人科腫瘍　　診断の基本となる細胞診・コルポスコピー・組織診の手技を習得する。開腹による良性・悪性腫瘍手術及び良性腫瘍に対しては可能な限り内視鏡手術を考慮してその技術習得をめざし、基本術式を執刀医として完遂できる。  4. 新生児管理　　新生児蘇生法（NCPR）Aコース受講を推奨し、出生後の新生児トラブル発生時の対応できることを目指す。  5. 終末期医療　　緩和ケア講習会受講を推奨と20床の緩和ケア専門病棟での終末期の疼痛管理・心理的サポートなどを院内緩和ケアチームや地域医療機関と連携して行う。  6. 不妊症・不育症治療　　基礎的な不妊症検査とAID（非配偶者間人工授精）を除く、あらゆる検査・治療に応需している。さらなる不妊症診療の習得をめざす専攻医は、ART（採卵・胚移植）にも従事することが可能である。  7. 画像診断と放射線治療　MRI・CTなどの読影力を養成と産科出血や婦人科疾患に対するIVRの症例を豊富に経験する。 | |
| **写真・ＨＰ** | |
| http://www.nasu.jrc.or.jp | |

|  |  |
| --- | --- |
| **独立行政法人国立病院機構埼玉病院** | |
| **指導医** | 中川　博之、倉橋　崇 |
| **疾患の比率** | 婦人科腫瘍　62％，周産期　30％，生殖・内分泌・女性ヘルスケア　8％ |
| **医師数** | 常勤：8名　　　非常勤：1名　　　　計：9名 |
| **病床・患者数** | 病床数　350床　（産婦人科　36床） |
| 婦人科手術　約　500件／年　分娩　約　450例／年 |
| １日当たりの平均外来患者数　88名 |
| **単年度専攻医受け入れ 可能人数** | 2名 |
| **病院の特徴** | |
| 平成２２年１月に新棟になり平成２８年度には新新棟建設され現在の３５０から５５０床に増床予定。医員は世代が近く平均年齢が低めで、活気があり楽しく仕事をしている。育児中の女性医師も3人常勤医でおり、今後も院内保育施設の拡充など子育て中の医師の労働環境を整備予定。本年度地域周産期センターとなり小児科は常勤医１４人、NICU４床稼働していて今後１２床に増床予定である。麻酔科も常勤医２０人と圧倒的なマンパワーを有しており、時間を問わず全ての手術の全身管理や、脊椎麻酔やCV挿入などの指導もしてくれます。他科医師、コメディカルやパラメディカルとも仲良く働きやすい環境である。前期臨床研修医も２学年で計１６人在籍している。過去に当院の前期臨床研修医から計８人の産婦人科医を輩出している。埼玉病院だが、道を一本隔てたら東京という立地で、最寄の駅が４駅（和光市駅、成増駅、地下鉄成増駅、光が丘駅）あり東武東上線、副都心線、大江戸線が利用可能。東京各地、信濃町（大江戸線、タクシー利用で最短３０分強で到着！）からのアクセス良い。地域がん診療連携拠点病院で婦人科腫瘍指導医が２人常勤である。そのため子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌の症例が比較的多く、悪性手術全手術に腫瘍専門医が入る。ガイドラインを基本に化学療法、放射線治療も施行している。緩和ケアの講習会も参加できる。良性疾患の内視鏡手術も積極的に行っている。産科は分娩において医療介入をどの時点でどのようにすれば良いか、吸引や帝王切開の適応など含め思考過程を大切にしている。双胎の経膣分娩もも研修中に1例は経験できると思われる。非常勤の牧田先生に第１木曜日に更年期外来をしていただいている。すべての分野で慶應大学病院の関連病院として、基本的に慶應大学病院の方針に沿った形での治療を心がけている。 | |
| **研修の特徴**  基本的にすべての症例を上級医師と受け持ち、各症例の経験を最大限に活かし、トラブルが生じた場合などの責任の所在も明確にしている。研修医の外来日は周産期専門医、腫瘍専門医が必ずいるように配置。症例のコンサルトや技術的な指導を受けられる。毎週放射線科、小児科と合同カンファレンスを施行。研修では分娩の取り扱い、帝王切開、婦人科の基本術式の習得が最重要になると思われる。手術の指導は術中の指導に加え術前術後のディスカッションなど、向上へのサポートには力を入れ通年で術者、助手がバランスよくできるように配慮。受動的、能動的に手術手技を指導し、技術や思考の早期確立を促すようにしている。学会発表や論文報告も積極的に行っている。サブスペシャリティとして婦人科腫瘍指導医、周産期暫定指導医、超音波専門医、がん治療認定医、細胞診専門医が勤務しており、婦人科腫瘍専門医、日本周産期・新生児学会の指定修練施設であり（日本超音波医学会も本年4月から指定予定）、専門医の取得の研修期間として研修を行えます。 | |
| **写真・ＨＰ** | |
| 国立病院機構　埼玉病院　ホームページ　http://saitama-hospital.jp | |
|  | |

|  |  |
| --- | --- |
| **東京歯科大学市川総合病院** | |
| **指導医** | 髙松　潔、他2名 |
| **疾患の比率** | 婦人科腫瘍　40％、周産期　30％、生殖・内分泌・女性ヘルスケア　30％ |
| **医師数** | 常勤：10名　　　非常勤：2名　　　　計：12名 |
| **病床・患者数** | 病床数　570床　（産婦人科　42床） |
| 婦人科手術　約　350件／年　分娩　約　400例／年 |
| １日当たりの平均外来患者数　160名 |
| **単年度専攻医受け入れ 可能人数** | 2名 |
| **病院の特徴** | |
| 市川市は千葉県の東葛地域に属し、東京都に隣接する人口集中地区である。当院は、昭和21年に開院し長い歴史を持つ。昭和59年に日本で2例目の体外受精・胚移植に、平成元年に日本初の凍結・融解胚移植に成功した。「愛と科学で再生を」を基本理念に、地域がん診療拠点病院、災害拠点病院、救急病院認定（千葉県）等に指定され、ほぼすべての診療科を備えている。大学病院であると同時に地域の中核病院である。院内保育所、職員カフエテリア、図書室などの設備も充実している。 | |
| **研修の特徴** | |
| 日本産科婦人科学会 産婦人科専門医の資格以外に、日本周産期・新生児学会暫定指導医、日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医、日本臨床腫瘍学会 暫定指導医、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医、日本臨床細胞学会 細胞診専門医、日本生殖医学会 生殖医療専門医、日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医、日本女性医学学会 女性ヘルスケア専門医、日本心身医学会専門医、日本女性心身医学会認定医師 の資格を持つ医師が在籍し、専門的な診療も行っている。日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設、日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設、日本婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構登録施設、日本周産期・新生児医学会周産期専門医制度暫定研修施設、日本生殖医学会認定研修施設であり、周産期、婦人科腫瘍、生殖医学（リプロダクションセンター）、女性医学（秋桜外来）、遺伝相談など、広い分野の診療をしている。  　産婦人科内での症例検討会、小児科との周産期カンフアレンス、放射線科との画像検討会、泌尿器科との不妊症例検討会を行い、各科との連携が密で診療しやすい環境である。近隣施設との勉強会等も多く、顔の見える形での連携が成立している。  　研修の特徴は「自ら主治医となり診療する」ことである。気軽に上級医に相談できる環境と、検討会の充実が安全性を保証している。病棟業務に加え、産科外来、再診外来、一般不妊外来を担当し、妊婦健診、婦人科疾患、不妊症を研修する。高難度の手術以外は自ら加刀できることを目標としている。具体的には、帝王切開術、腹式（腟式）子宮全摘出術、開腹（腹腔鏡下）筋腫核出術、腹腔鏡下付属器摘出術、腹腔鏡下卵巣嚢腫切除術などを想定している。また、婦人科腫瘍、女性医学、生殖医学、遺伝などの専門分野を深く研修すること可能である。学会活動も盛んで、専攻医にも学会発表、論文投稿を指導する。 | |
| **写真・ＨＰ** | |
| 産婦人科　<http://www.tdc.ac.jp/hospital/igh/department/obstetrician_gynecologist/index.html>  リプロダクションセンター　<http://www.tdc-repro.jp/>  C:\Users\YOSHIDA\Pictures\慶應\産婦人科病棟.jpg  　　　　産婦人科病棟　　　　　　　　　　　　　　専攻医 医局　　　　　　　　　　　　　　院内保育所 | |



|  |  |
| --- | --- |
| **さいたま市立病院** | |
| **指導医** | 矢久保　和美、他3名 |
| **疾患の比率** | 婦人科腫瘍　25％，周産期　60％，生殖・内分泌・女性ヘルスケア　15％ |
| **医師数** | 常勤：5名　　　非常勤：3名　　　　計：8名 |
| **病床・患者数** | 病床数　567床　（産婦人科　58床） |
| 婦人科手術　約　200件／年　分娩　約　874例／年 |
| １日当たりの平均外来患者数　56名 |
| **単年度専攻医受け入れ 可能人数** | 2名 |
| **病院の特徴　（HP：　http.//www.city.saitama.jp/shiritsubyoin.html　）** | |
| さいたま市は豊かな自然と近代都市が共存する都心から最も近い地方都市です。新宿まで25分と利便性も高く、周囲に温泉施設やショッピングモールなども充実しており非常に生活しやすい環境です。  地域の基幹病院としてほぼ全ての科がそろっており、救急医療・がん診療・地域医療にいたるまで幅広い研修が可能です。救急指定医療病院、がん診療連携拠点病院、臨床研修指定病院に指定されており、初期研修医は毎年2学年20名前後が研修を行っております。他部門との連携もスムーズかつアットホームな雰囲気で研修医にとって居心地のよい環境です。さらに24時間対応の託児所も設置され病児保育も可能であり、女性にとっても非常に働きやすい職場です。  平成13年に**地域周産期母子医療センター**が開設され、合併症妊娠、ハイリスク妊娠に対応し24時間体制での母体搬送、入院管理を行っております。また、平成24年より県内初のセミオープンシステムの稼働により、積極的に地域の周産期医療の推進をはかっております。周産期センターでは産科病棟40床（重症個室4床）、NICU12床、GCU18床を有し22週以降受け入れ可能となっています。平成27年度実績は分娩数874例、帝王切開401例（緊急帝切170例）母体搬送受け入れは126例でした。センター内には専用の周産期手術室および新生児蘇生室が併設されており、超緊急帝王切開に対応しています。  婦人科疾患も幅広い症例を扱っており、悪性疾患に対しては手術、放射線療法、化学療法を含めた集学的治療を行っております。良性疾患（子宮筋腫、卵巣腫瘍、子宮内膜症、骨盤臓器脱など）も救急疾患含め近隣施設からの紹介例も多く。その他、女性医学の領域でも思春期から老年期にいたる各ライフステージにおける疾患に幅広く対応しております。 | |
| **研修の特徴** | |
| 地域の基幹病院として、ハイリスク妊娠から悪性疾患、救急疾患にいたる豊富な症例が紹介されてくるため、産婦人科に求められる専門知識や技術の習得が可能です。貴重な症例も数多く学会発表や論文作成も積極的に行っております。  一方産婦人科で危惧されがちな当直などの拘束は関連病院からの外注当直医の協力により最低限度におさえられ、オン・オフの切り替えも大切にしています。  病院.jpgH:\DCIM\101_PANA\P1010291.JPGまた、埼玉県で最も高度な周産期医療を提供している施設の一つであり、周産期専門医取得のための基幹病院としてサブスペシャリティーにつながる研修が可能です。  周産期手術室  外来待合室  病院外観 | |



院内託児所

小山記念病院

|  |  |
| --- | --- |
| **医療法人社団善仁会　小山記念病院** | |
| **指導医** | 酒井　謙 |
| **疾患の比率** | 婦人科腫瘍　30％，周産期　60％，生殖・内分泌・女性ヘルスケア　10％ |
| **医師数** | 常勤：6名　　　非常勤：10名　　　　計：16名 |
| **病床・患者数** | 病床数　224床　（産婦人科　32床） |
| 婦人科手術　約　380件／年　分娩　約　750例／年 |
| １日当たりの平均外来患者数　95名 |
| **単年度専攻医受け入れ 可能人数** | 2名 |
| **病院の特徴** | |
| 当院は鹿島神宮駅より徒歩10分の高台に位置する224床の急性期病院で、内視鏡センター、健康管理センター、人工透析センター、顎・口腔インプラントセンターを完備し、地域の幅広いニーズに応えるために尽力しています。また、当院は救急指定病院として鹿行地域では最多の年間約2,700台もの救急車の受け入れを行い、救急医療の充実にも努めています。産婦人科に関わる施設認定としては、日本産婦人科学会専門医制度専攻指導施設、日本産婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設、茨城県周産期救急医療協力病院にも指定されており、専門医資格取得も可能となっています。 | |
| **研修の特徴** | |
| 当院は鹿行地域における出生数の約35％の分娩を受けており、年間分娩件数は約750件です。さらには、茨城県指定のがん診療指定病院であるため、地域の医療機関から多くの婦人科的な疾患の紹介を受けています。現在では、地域の中核病院として当院産婦人科が広く周知（ブランド化）されているとともに、千葉県香取地域からも数多くの方が受診されています。  経験できる手技は、産科及び婦人科領域における開腹手術・内視鏡手術・腟式手術や帝王切開術などの基本手技を相当数経験できるとともに、生殖医療も経験することができます（下記、経験できる手技及び手術参照）。また、常勤及び非常勤16名体制で診療を行っていますので、懇切丁寧な指導を受けながら診療を行うことができます。  　（経験できる手技）  　　産　　科：妊娠診断、妊婦健診、切迫早産等妊娠経過異常に対する管理、分娩管理、分娩処置（正常・吸引・鉗子・骨盤位・帝王切開分娩、会陰切開縫合等）、新生児の診察、産褥管理  　　婦 人 科：一般外来診療（内診・直腸診・穿刺診・検体検査・内視鏡検査・画像診断等による各種疾患の診断、投薬・小手術等による治療）、入院治療（手術患者の手術及び周術期管理、感染性疾患や悪性腫瘍患者の全身管理）  　　生殖医療：不妊外来（基礎体温表の診断・各種ホルモン検査・精液検査・卵管検査等による診断、治療方針の立案と排卵誘発や人工授精）  　（経験できる手術）  　　産　　科：帝王切開術、人工妊娠中絶、卵管避妊手術  　　婦 人 科：腹式単純子宮全摘出術、膣式単純子宮全摘手術、準広汎（拡大単純）子宮全摘出術、子宮筋腫核出術、子宮膣部円錐切除術、子宮脱手術、付属器摘出術、卵巣腫瘍核出術（切除術）、卵巣癌根治手術、Bartholin腺手術（造袋術、摘出術）、子宮鏡下手術、腹腔鏡下手術、腹水穿刺術、皮膚腫瘤生検術  　　生殖医療：腹腔鏡  また、外科・泌尿器科・脳神経外科など外科系のみならず、緩和ケアチーム・NSTチーム・外来化学療法室なども含めた各科の幅広い連携協力の良さは当院の特徴の一つです。 | |
| **写真・ＨＰ　http://www.koyama-mh.or.jp/** | |
| C:\Users\yoichi\Downloads\全景_丘.jpg | |

|  |  |
| --- | --- |
| **医療法人財団　荻窪病院** | |
| **指導医** | 吉田　宏之 |
| **疾患の比率** | 婦人科腫瘍　10％，周産期　35％，生殖・内分泌・女性ヘルスケア　55％ |
| **医師数** | 常勤：8名　　　非常勤：0名　　　　計：8名 |
| **病床・患者数** | 病床数　252床　（産婦人科　21床） |
| 婦人科手術　約　240件／年　分娩　約　440例／年 |
| １日当たりの平均外来患者数　114名 |
| **単年度専攻医受け入れ 可能人数** | 2名 |
| **病院の特徴** | |
| 当院は急性期病院として内科・外科および泌尿器科・小児科もある総合病院として地域に根ざした医療を行なっています。産婦人科は生殖補助医療（体外受精・顕微授精）を1983年より開始し、日本で3番目の妊娠例を得ています。2008年12月から本部門は荻窪駅徒歩圏に分院「虹クリニック」として患者の利便性を高めています。体外受精の採卵件数は424件、胚移植件数は563件となっています(2014年)。また本院においては、産科および良性疾患の機能温存を中心とした内視鏡下手術（腹腔鏡・子宮鏡・卵管鏡下手術）を積極的に行なっており、2014年には計210例の手術を施行しています。また2013年7月より新別館にLDR3室をもった産科病棟も建築されました。性成熟期におけるひとりの患者の挙児希望→手術→生殖医療→妊娠・分娩（帝王切開など）にトータルで携わることができ、包括的女性医療を実践できることが当院産婦人科の最大の特色といえます。（日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設、生殖医療専門医制度研修連携施設） | |
| **研修の特徴** | |
| 外来・病棟診療ともに上級医の指導のもとに行います。特に外来診療は円滑なconsultが可能なように必ず上級医が隣のブースでの診療を行うように配慮します。 　外来診療においては、一般婦人科診療・産科健診とともに分院での不妊検査の理解をすすめます。その上で一般不妊治療を習得・実践した後、習熟度に応じて生殖補助医療の卵巣刺激・採卵・胚移植に従事することを予定します。また泌尿器科には男性不妊の第一人者が従事しており、MD-TESE(顕微鏡下精巣内精子採取術）等の実際に触れる事も可能です。 　病棟業務では正常分娩、および異常分娩の速やかな対応法の習得を第一とします。また術前・術後の管理を十分に行えるように上級医とのディスカッションを重ねて行きます。また年一回講師を招きNCPRを開催し（Bコース）、新生児管理を誰もが理解しup to dateするように心がけています。 　手術に関しては一般的な手術を自らプランニングし執刀できることを目標とするため、毎週のカンファレンスで症例報告・術式検討を必ず行っています。腹腔鏡下手術は、卵巣囊腫の付属器切除・嚢腫摘出、異所性妊娠手術から、2年目の研修に入る場合本人の技量に応じて腔内縫合を必要とする筋腫核出術等まで予定します。 学会活動は地域の研究会、地方部会、基幹学会への発表・論文投稿を積極的に行っています。学会前は必ず予演会を行い討議し、指導医だけでなく全体でサポートしていきます。 | |
| **写真・ＨＰ** | |
| 荻窪病院　ホームページ http://www.ogikubo-hospital.or.jp 虹クリニック　ホームページ <http://www.ogikubo-ivf.jp> | |

|  |  |
| --- | --- |
| **国家公務員共済組合連合会立川病院** | |
| **指導医** | 平尾　薫丸 |
| **疾患の比率** | 婦人科腫瘍　55％，周産期　35％，生殖・内分泌・女性ヘルスケア　10％ |
| **医師数** | 常勤：7名　　　非常勤：1名　　　　計：8名 |
| **病床・患者数** | 病床数　500床　（産婦人科　45床） |
| 婦人科手術　約　450件／年　分娩　約　550例／年 |
| １日当たりの平均外来患者数　60名 |
| **単年度専攻医受け入れ 可能人数** | 2名 |
| **病院の特徴** | |
| 当院はJR立川駅および西国立駅を最寄り駅とし、戦前より陸軍病院として活動を始めた古い歴史を有し、現在では広大な多摩地域の重要な基幹病院の1つとして住民の方々から信頼されています。平成29年5月に新たな病棟がオープンする予定で、屋上庭園などの緑地が増え、地上9階建ての新病院に生まれ変わります。東京都がん地域医療連携モデル病院と東京都地域周産期母子医療センターにも認定され、NICU6床を有して年間約60件の母体搬送を受け入れながら、婦人科悪性腫瘍も年間100症例以上の浸潤癌を扱い、腹腔鏡・子宮鏡下手術も年間100症例以上ありますので、専攻医の先生にはたくさんの症例数を経験してもらっています。また婦人科悪性腫瘍研究機構(JGOG)による臨床試験にも参加しています。 | |
| **研修の特徴** | |
| 東京都多摩地域の中で立川市だけでなく周辺地域のかなり遠方からも患者さんが紹介受診されます。開腹手術・内視鏡手術・腟式手術や帝王切開術などの基本手技を相当数経験しますが、一つ一つの症例を丁寧に診療するように心がけて頂きます。外科・泌尿器科など外科系のみならず、緩和ケア科・精神神経科なども含めた各科の幅広い連携協力の良さは当院の特徴の一つです。周産期においてはセミオープン・システムの採用により、ハイリスク妊婦の診療により対応できる環境を実現しながら、妊娠28週以降の受入れ基準を維持し、地域の要望に応えるように努めています。浸潤癌症例では複雑な骨盤解剖を実地経験すると共に、放射線療法・外来化学療法の管理や終末期の支援、細胞診・コルポ診の見方・考え方なども研鑽して頂きます。婦人科腫瘍専門医・細胞診専門医・がん治療認定医・周産期専門医・超音波専門医・臨床遺伝専門医が在籍しており、学会発表・論文作成を含めた指導体制を充実させています。専攻医と上級医師を含めて交代制で当直・オンコール体制を組んでいます。国家公務員に準拠して産休・育休制度が利用でき、産休中は固定給が全額支給されます。日曜保育および曜日限定の夜間保育を利用できる院内保育室が完備されています。学会出張・研修などに関しては休暇・費用補助制度が利用できます。意欲のある専攻医の先生方をお待ちしております。 | |
| **写真・ＨＰ　http://www.tachikawa-hosp.gr.jp/** | |
|  | |

|  |  |
| --- | --- |
| **富士重工業健康保険組合太田記念病院** | |
| **指導医** | 福庭　一人 |
| **疾患の比率** | 婦人科腫瘍　40％，周産期　40％，生殖・内分泌・女性ヘルスケア　20％ |
| **医師数** | 常勤：6名　　　非常勤：1名　　　　計：7名 |
| **病床・患者数** | 病床数　404床　（産婦人科　28床） |
| 婦人科手術　約　550件／年　分娩　約　700例／年 |
| １日当たりの平均外来患者数　78名 |
| **単年度専攻医受け入れ 可能人数** | 2名 |
| **病院の特徴** | |
| 病院の位置する太田市は人口約22万人の群馬県第3の都市で、県の南東部にあり、埼玉県と栃木県との県境にあります。  最寄り駅は東武伊勢崎線の太田駅です。病院は平成24年6月1日に旧病院である総合太田病院より新築移転し、名称も建設母体である富士重工業健康保険組合の創立50周年事業にあたるということで、太田記念病院とリニューアル致しました。  基本理念は「思いやりの心で行う医療」であり、患者様の人格と権利を尊重し、何よりも安全を重視した医療の提供を目指しています。病床数は404床、診療科は29科で、病院の使命として、地域の基幹病院としての役割を十分に果たすことがあげられます。当院は群馬県内で4つ、東毛地区（群馬県東部）で唯一の3次救急医療機関となっており、ドクターヘリによる搬送にも対応しています。産婦人科は28床で、地域周産期母子医療センターにも指定されています。小児科、NICU6床は同じ5階にあり、産婦人科、小児科、小児外科の協力体制のもと、地域の周産期にも貢献しています。 | |
| **研修の特徴** | |
| 当院は地域に対して非常に重要な役割を果たしており、産科、婦人科とも専攻医にとっては症例の宝庫であり、非常に様々な症例を経験することができます。救急症例も多いため、産婦人科にとって非常に大切な咄嗟の状況判断も自然と習得できる環境にあります。外来は専攻医の先生にも初診、再診、産科の週3コマの外来を受け持ってもらい、上級医の先生と相談しながら、主治医として診断から治療まで関わってもらっています。産科部門は平成26年は分娩数679件、帝王切開187件で、正常分娩以外にも、前置胎盤症例や常位胎盤早期剥離症例などのハイリスク妊娠や母体搬送、産後の危機的出血の症例を積極的に受け入れ、双胎の経腟分娩も症例を選んで行っています。当院は日本周産期・新生児学会の専門医の習得も可能です。婦人科部門も良性疾患から悪性疾患まで幅広く対応しており、平成26年の悪性腫瘍手術は31件でした。また内視鏡下手術には特に力を入れており、平成26年の内視鏡下手術は334件で、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医2名が常勤医として勤務しています。その他当院ではCIN2～3に対してのレーザー蒸散術や過多月経に対してのMEA（マイクロ波子宮内膜焼灼術）、産科の危機的出血に対してのUAE（子宮動脈塞栓術）を行えるハイブリッド手術室などの設備や機器も整っています。専攻医の先生にも上級医が適切なサポートを行い、よりたくさんの手術を経験してもらうということを基本方針としています。 | |
| **写真・ＨＰ** | |
| 太田記念病院　ホームページ　http://www.ota-hosp.or.jp/    　　　　　病院全景　　　　　　　　　　　　　　　ＮＩＣＵ　　　　　　　　　　　　　　腹腔鏡手術 | |